

ログミー Finance 個人投資家向けIRセミナー

SBI インシュアランスグループ 会社説明資料



SBI インシュアランスグループ株式会社
証券コード : 7326 2025年12月9日

会社概要	P. 3
連結業績の推移	P. 10
事業戦略	P. 16
中期経営計画	P. 24
株主還元	P. 27
長期展望	P. 31
参考資料	P. 38

(本資料中の表示)

- 資料内の社名等の表示に、次の略称を使用している箇所があります。

SB少短保険ホールディングス株式会社・・SSIHいきいき少短

S B I いきいき少額短期保険株式会社

S B I 日本少額短期保険株式会社 S B I 日本少

S B I リスタ少額短期保険株式会社 · · · · · S B I リスタ少額短期保険株式会社

SBIプリズム少額短期保険株式会社・・・・・SBIプリズム少額短期保険

S B I 常口セーフティ少額短期保険株式会社 ・・・ S B I 常口セーフティ少額短期保険株式会社

SB Iペット少額短期保険株式会社・・・・・SB Iペット少短

会社概要

当社は、SBIグループの中で保険事業を統括している保険持株会社。
当社の経営管理の下、連結子会社9社が損害保険事業、生命保険事業、
少額短期保険事業の3事業を推進



※当社グループ各社は、親会社であるSBIホールディングス株式会社が保有する「SBI（ロゴマーク含む）」等の商標について所定の使用許諾を得ています。
詳細については、有価証券報告書に記載しています。

オンラインでお客さまとダイレクトにご契約する保険を多く取り扱う新しいタイプの保険グループ。合理的でお手ごろな金額の保険料と、24時間つながる利便性の高さが大きな特徴



エッジの効いたユニークな商品ラインナップ。
当社グループの保険商品の多くは、オンライン販売に適した低価格な商品。
オンラインで比較されることで価格面の優位性が際立つ

＜商品ライン＞

事 業	1. 損害保険事業 (SBI損害)	2. 生命保険事業 (SBI生命)
取扱商品	ダイレクト型自動車保険 実損填補型がん保険 火災保険 その他の損害保険	団体信用生命保険 定期保険 就業不能保険 終身医療保険
事 業	3. 少額短期保険事業 (グループ少短6社)	
取扱商品	家財保険 生命保険 法人顧客向けオーダメイド型保険 (ブライダル保険等) その他の少額短期保険	地震保険 医療共済 車両保険 ペット保険



より良い保険商品を低価格でご提供。
価格.com、オリコンなどの保険商品の
満足度ランキングで第1位を受賞

＜損保商品の受賞例＞

保険種類	受賞名
自動車保険	価格.com 自動車保険 満足度ランキング2025 「保険料満足度」 第1位（14回目）※1
がん保険	2025年 オリコン顧客満足度®調査 定期型がん保険（FP評価） 総合1位（4回目）※2



Ranking No.1

※ 1 : 2024年4月から同年11月に価格.comを利用した方のなかで、調査時点において自動車保険(任意保険)に加入している、もしくは、事故時等に保険会社に連絡をしたことのある方 (回答者数4,804件) から得た回答に基づきランキングを発表しています。

※2:定期型がん保険5商品からファイナンシャルプランナー40名を対象に、株式会社oricon MEが実施した調査です。



保険商品のランキングで第1位を受賞。
価格.comでは就業不能保険が、
オリコンでは定期保険が第1位を初受賞

＜生保商品の受賞例＞

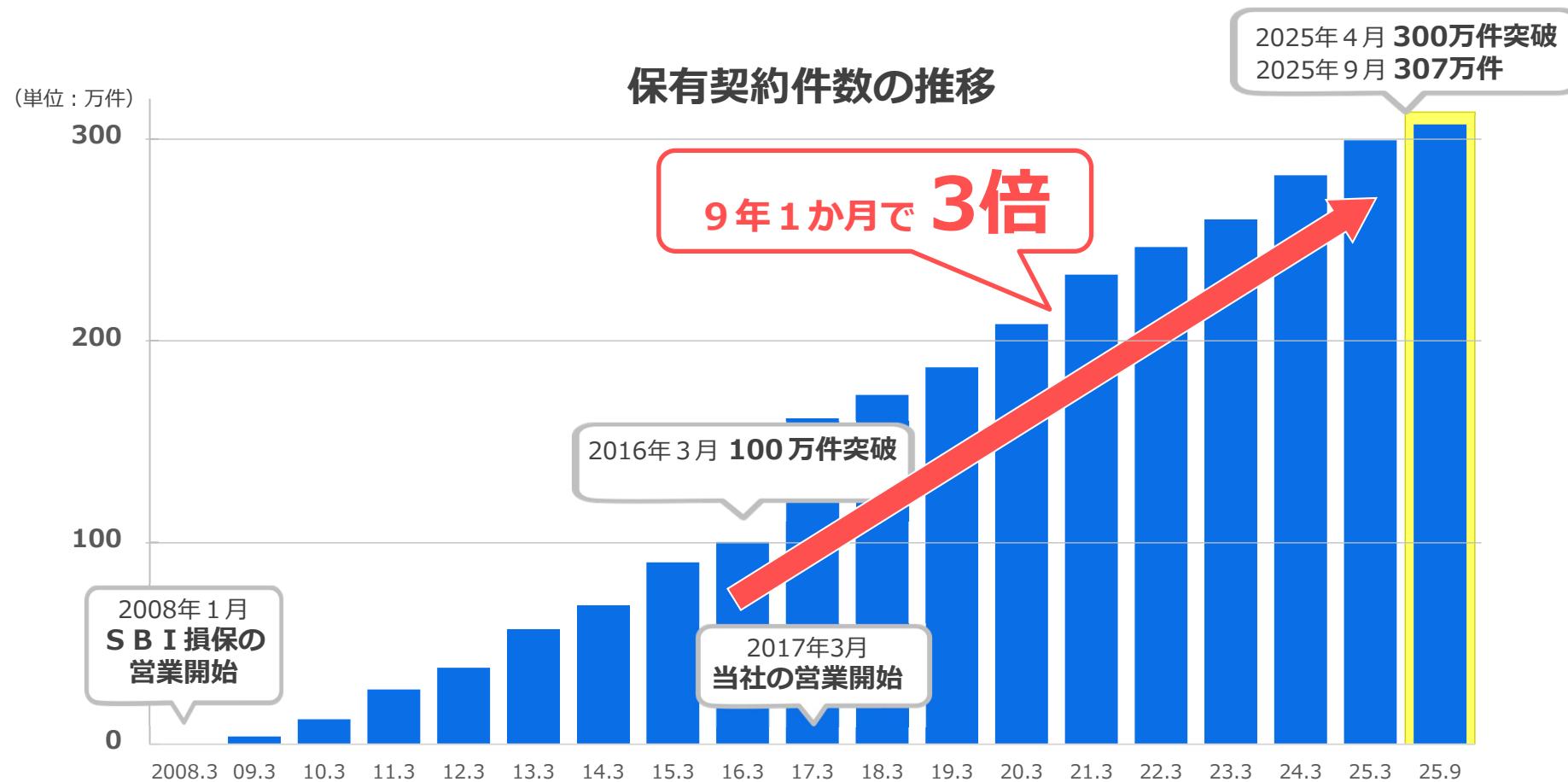
保険種類	受賞名
就業不能保険	価格.com保険アワード2025年版 「就業不能保険の部」 第1位（初受賞） ^{*1}
定期保険	2025年 オリコン顧客満足度®調査 定期型生命保険（FP評価）総合1位（初受賞） ^{*2}
医療保険	保険市場「2025年版 最も選ばれた保険ランキング」 第1位（2年連続）

Ranking No.1

* 1 : 調査期間は2024年1月1日～12月31日。2024年12月31日時点で掲載されていた保険商品が対象。対象8商品。

* 2 : 定期型生命保険 7商品からファイナンシャルプランナー40名を対象に、株式会社oricon MEが実施した調査です。

SBIの保険は、お客さまから選ばれる保険。当社グループの保有契約は、**2025年4月末に300万件を突破**※ 効率的な顧客アプローチとコスト最適化により、どこよりも割安な保険料を目指しています。

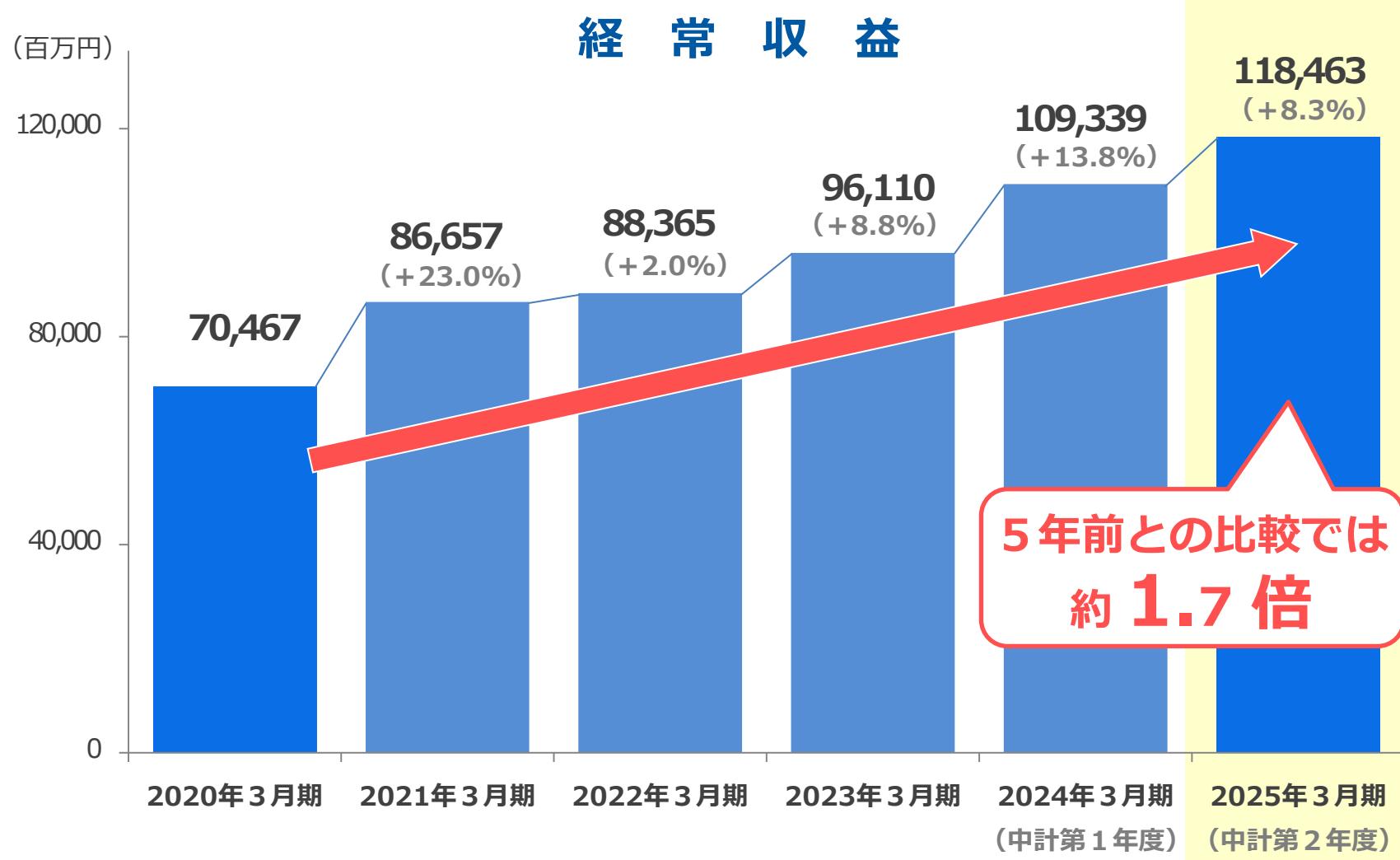


※1 当社はSBIグループの保険事業を統括する保険持株会社として2017年3月に営業を開始いたしましたが、当社の各子会社は当社の営業開始前から営業活動を行っているため、上記グラフでは、各子会社のSBIグループ加入後（当社の親会社であるSBIホールディングス株式会社の子会社となって以後）の保有契約件数を表示しています。

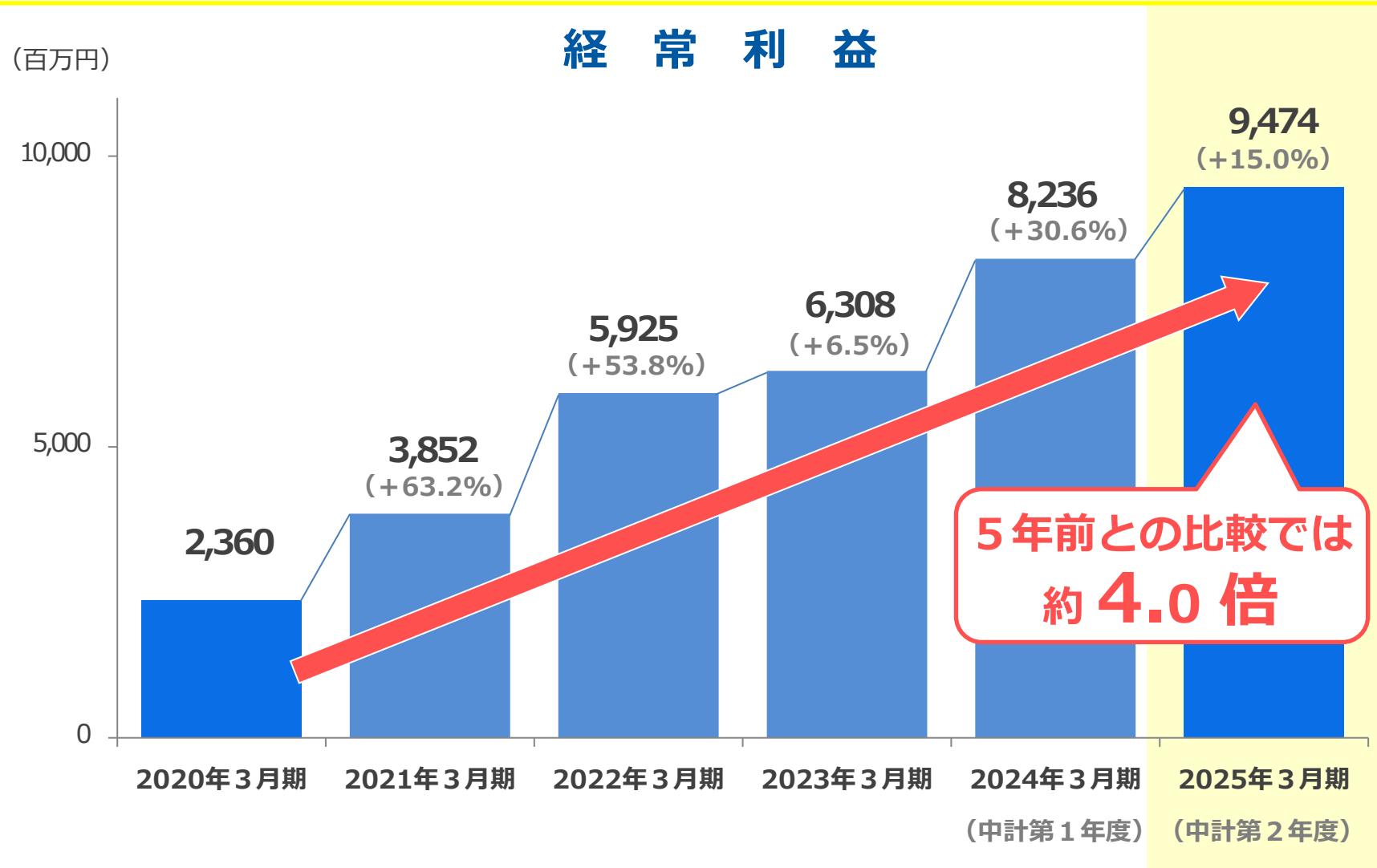
※2 損害保険事業の保有件数には2022年6月よりSBI損保の団体がん保険の被保険者数を、生命保険事業の保有契約件数には、SBI生命の団体信用生命保険の被保険者数を含めています。

連 結 業 績 の 推 移

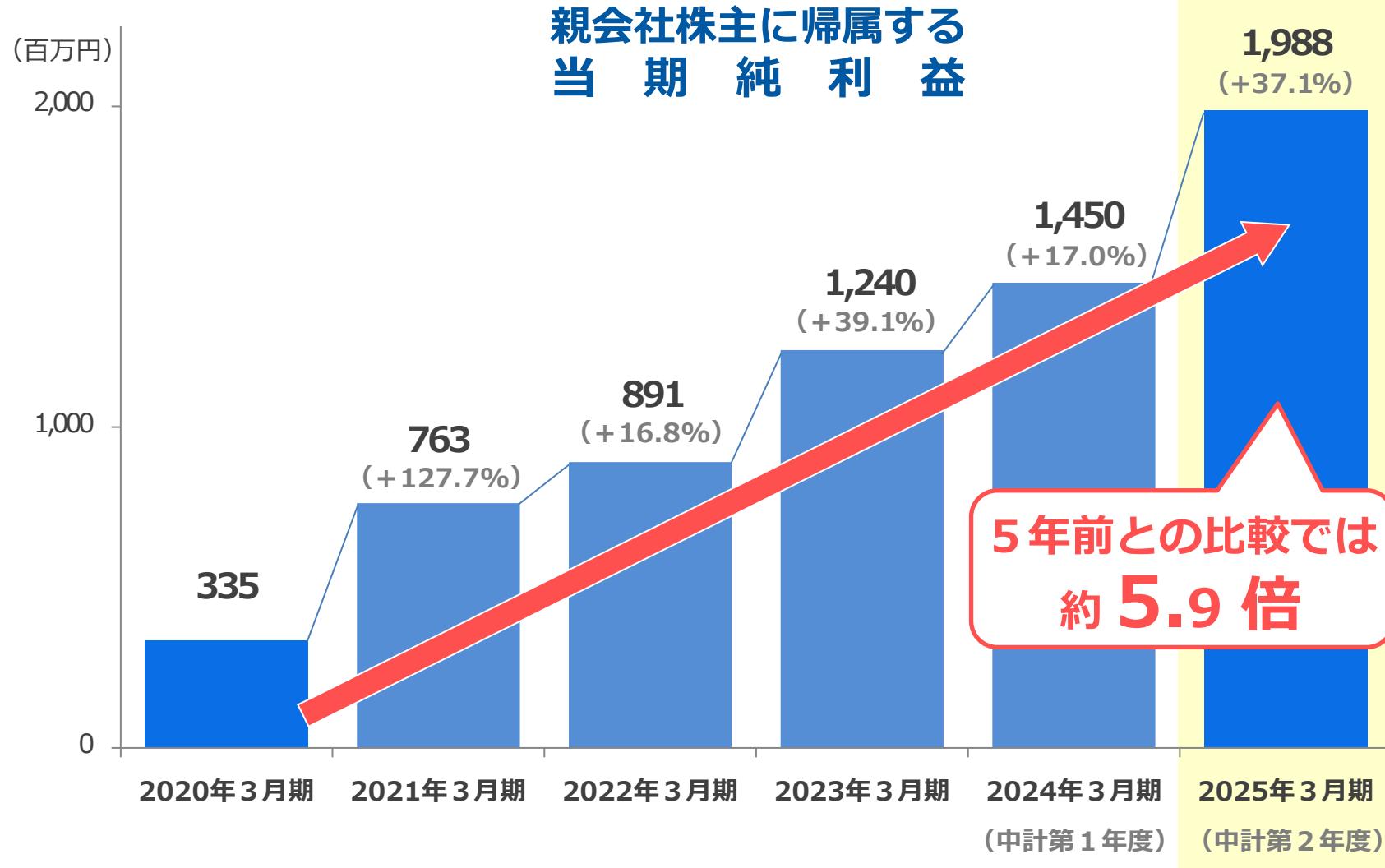
「経常収益」は 5年で 1.7倍に増加。過去5期の年平均成長率 (CAGR) は 10.9%。保有契約の堅調な増加を背景に增收が続く



「経常利益」は 5年で 4.0倍に増加。過去5期の年平均成長率 (CAGR) は 32.1%。保険料の增收が主な要因となり増益が続く



「親会社株主に帰属する当期純利益」は 5年で 5.9倍に増加。過去5期の年平均成長率（CAGR）は 42.8%。20年3月期から連續最高益



進行期の業績も順調。経常収益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益の3項目ともに第2四半期としての過去最高金額を更新

2026年3月期 第2四半期 連結業績

(単位:百万円)

	2025年3月期 第2四半期累計 (2024年4月～2024年9月)	2026年3月期 第2四半期累計 (2025年4月～2025年9月)	対前年同期 増減率
経常収益	57,362	69,211	20.7%
経常利益	4,867	7,307	50.1%
親会社株主に 帰属する 中間純利益	1,626	2,254	38.6%

2026年3月期通期の連結業績予想に対して、実績は順調に進捗。
 予想修正の要否は、損保事業における降雪等による影響を考慮して
 第3四半期決算速報時に検討

(連結業績予想、配当予想)

指標	2025年3月期 通期実績	2026年3月期		
		通期予想 2025年5月8日公表	第2四半期累計 実績	進捗率
経常収益 (百万円)	118,463	131,000	69,211	52.8%
経常利益 (百万円)	9,474	11,000	7,307	66.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (※中間純利益) (百万円)	1,988	2,500	2,254	90.2%
1株当たり額 (円 銭) 配当	23円 00銭	40円 00銭	—	—

事業戦略



1. 徹底的なローコスト・オペレーション

保険のオンライン販売を軸に事業を展開。インターネットでお客さまとダイレクトにつながり、AI・ビッグデータなどのテクノロジーを利用した徹底的なローコスト・オペレーションを実践。これにより事業費を節約し、その分、安い保険料でより良い保険商品をお客さまにご提供することで、お客さまに選ばれる。

2. SBIグループのシナジーを追求

SBIグループの非常に大きな顧客基盤を利用。SBIグループ各社のお客さまに加え、グループ外の地域金融機関・異業種企業を通じて、さまざまな属性の顧客層へアプローチ。テレビCM・新聞広告などのマス広告にかける費用を抑えて、効率的に保険を販売。

SBI損保の自動車保険

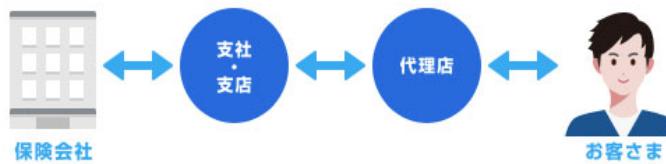
リーズナブルな保険料でお客様に選ばれている**ダイレクト型の自動車保険**。
SBI損保は支社・支店などを持たず、人や書類を極力介さずに、主にインターネットを通じてお客様とダイレクトにつながって保険契約を結ぶことで、余計な中間コストを削減し、お手頃な保険料を実現

代理店型の損保



（代理店型自動車保険）

人件費などの中間コストが保険料に反映



（ダイレクト型自動車保険）

人件費などのコストをカットして
自動車保険をリーズナブルに提供

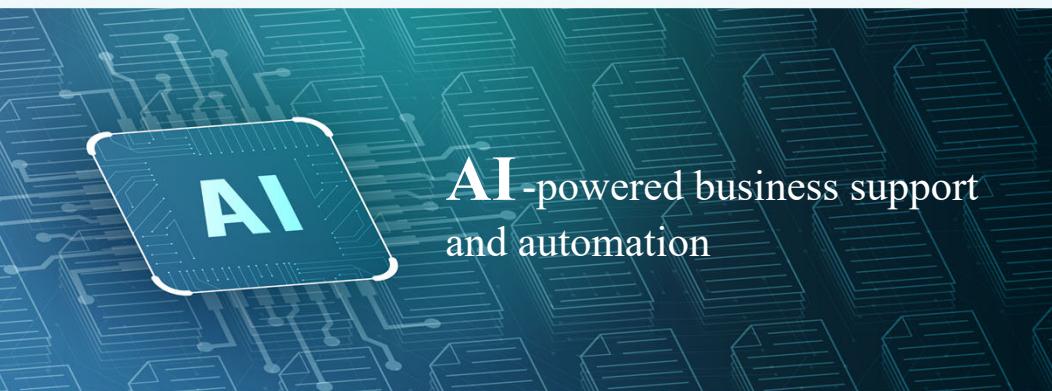


ダイレクト型は、
究極の販売経費削減策

他のダイレクト型と比べても割安な価格設定にチャレンジ。

SBI損保の自動車保険

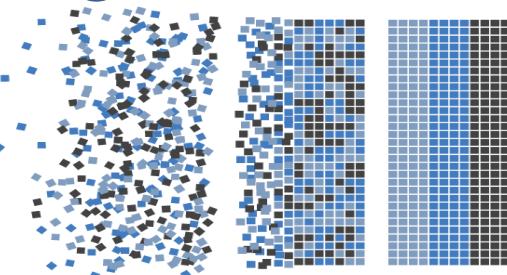
保険販売、事故受付、お支払いする保険金の査定など、さまざまな業務で
ビッグデータとAIを利用。データ分析に基づく業務効率の大幅な上昇と
業務の一部自動化により、ローコスト・オペレーションの高度化を実現。
SBIグループの集合知も利用して業務運営態勢を整備



AI-powered business support
and automation

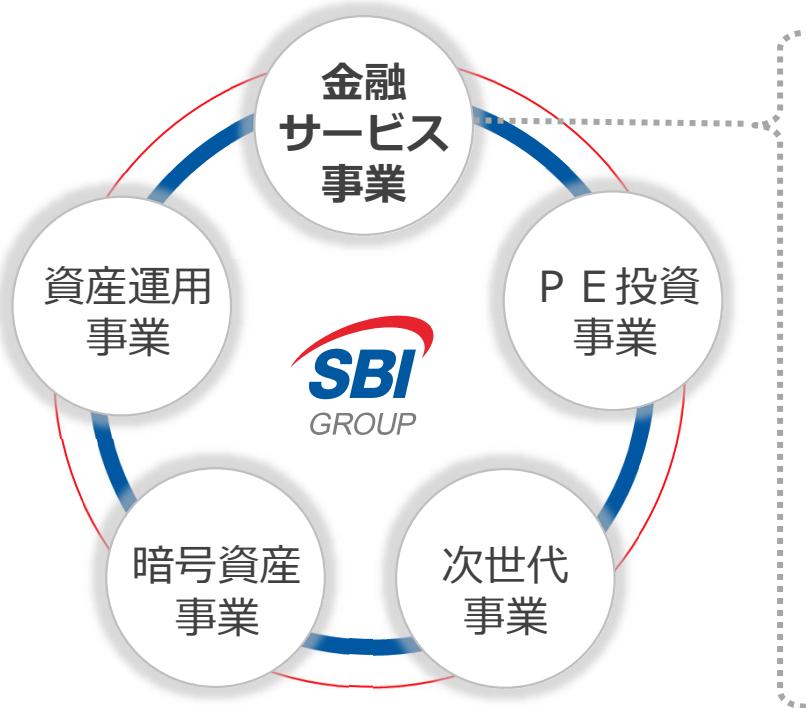


Big Data creates value.



SBIグループは、日本のインターネット金融のパイオニア。
オンライン証券、銀行、保険などの金融サービス事業を中心に、
多岐にわたる事業を展開する金融コングロマリット

< SBIグループの事業領域 >



< 代表的なグループ会社（金融サービス事業）>

- | | | |
|--------------|------------------------------|---------------|
| 1. 証券 | SBI証券 | (証券会社) |
| | SBIマネープラザ | (対面営業) |
| 2. 銀行 | SBI新生銀行 | (銀行) |
| | アプラス | (総合信販会社) |
| | SBIアルビ | (住宅ローン専門金融機関) |
| 3. 保険 | SBIインシュアラ NS グループ 10社 | |

※ SBIグループは、当社の親会社であるSBIホールディングス(株)を持株会社とした企業グループです。当社グループは、SBIグループに属しています。

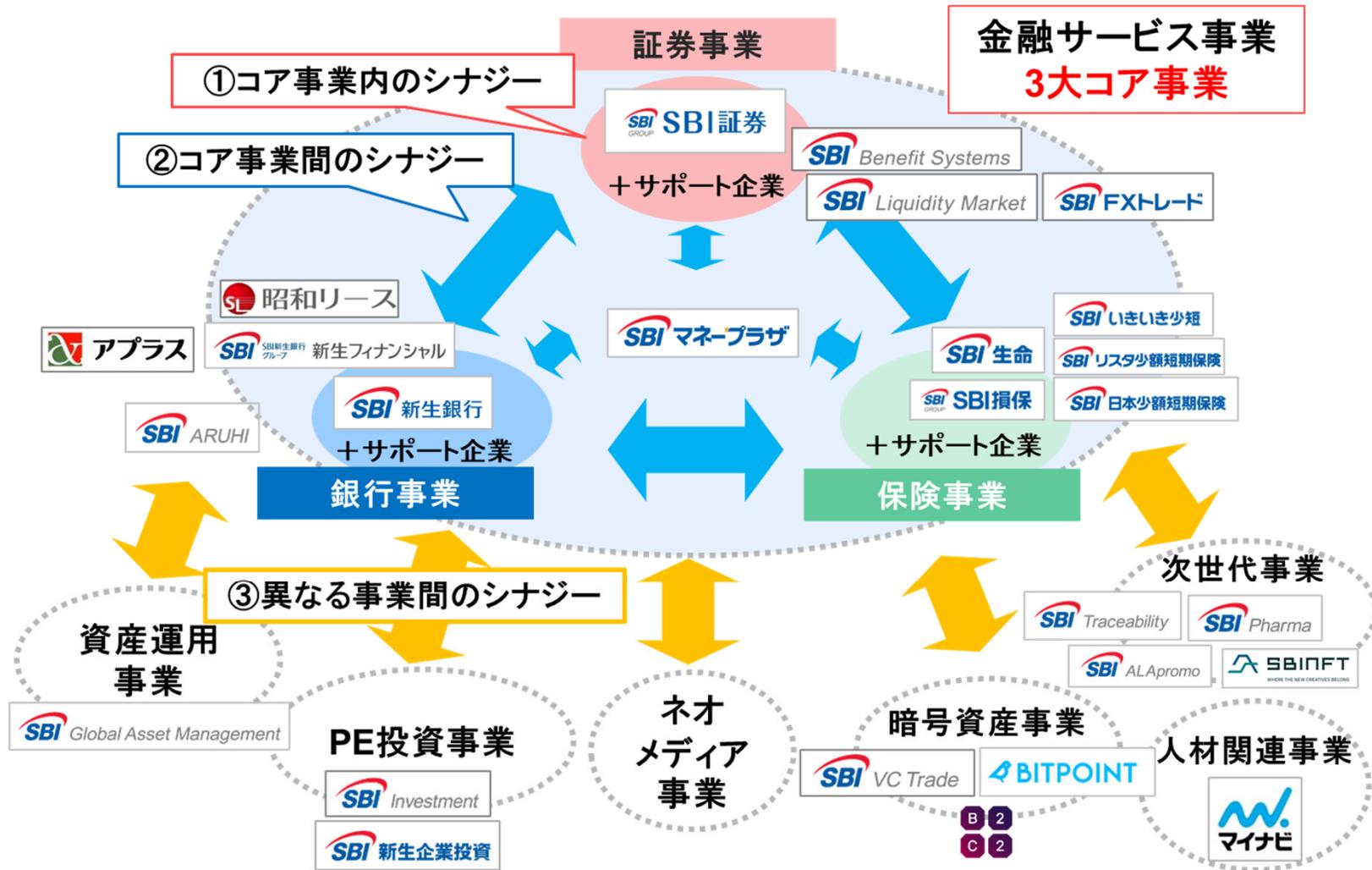
SBIグループは、利便性の高いサービスを、低価格でお客様に提供。 グループの総合力を発揮して事業規模を拡大

< SBIグループの変遷 >

SBIグループは、1999年のグループ創設以来、「顧客中心主義」を徹底。インターネットを活用し、主に金融の分野でより低価格でより利便性の高い革新的な商品やサービスを提供する様々な事業会社を設立しながら企業生態系を構築してきました。

創設当時 (1999年7月8日)		創業20周年 (2019年3月末)	創業26年 (2025年3月末)
グループ顧客基盤	0	2,520万件	5,442万件
従業員数（連結）	55人	6,439人	19,156人
売上高（連結）	0	3,514億円	14,437億円
グループ会社数	0	259社	760社
資本金	5,000万円	920億円	1,819億円

SBIグループ全体の顧客基盤も拡大（25年3月末 5,442万件^{※2}）。
相乗効果と相互進化を生み出しながら今後も成長



※ SBIホールディングス（株） インフォメーションミーティング（2025年6月2日 名古屋）投影資料を基に一部更新

**SBIグループは、三井住友フィナンシャルグループ、NTTグループと
資本業務提携。当社グループがアクセスできるお客さまも大きく増加**



SBIグループをハブとした、企業グループ間のシナジーを創出

中 期 経 営 計 画

2023年5月に策定した5か年の中期経営計画（中計）は、最終年度の純利益を基準年度（23年3月期）の3.2倍とする数値目標を設定

（中計の数値目標）

指標	2023年3月期 (基準年度)	2028年3月期 (計画最終年度)		
	実績	計画	基準年度比増減	
経常収益 (百万円)	96,100百万円	160,000百万円	63,900百万円	+66.5%
経常利益 (百万円)	6,300百万円	17,000百万円	10,700百万円	+169.5%
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,240百万円	4,000百万円	2,760百万円	+222.5%
1株あたり額 (円銭)	10円 00銭	30%前後の水準の配当性向を目指す。		
2026年3月期より目標とする連結配当性向を大幅に引き上げ（2025年5月8日公表）		40%程度を目安として実施（上方修正済）	  +222.5%増、すなわち、約3.2倍と計画	

中計の初年度（24年3月期）、第2年度（25年3月期）とともに
利益目標をやや上回る着地。進行期（26年3月期）も順調に推移

(単位：百万円)

4000

3000

2000

1000

0

親会社株主に帰属する当期純利益（連結ベース、実績・予想・計画）



■ 実績

■ 予想（26年3月期）・計画（28年3月期）

中期経営計画
の策定・公表
(23年5月)

1,240

実績

1,450

実績

1,988

実績

2,500

予想

4,000

計画

計画時の直前期純利益を
5年で3.2倍へと計画

2023年3月期
(基準年度)

2024年3月期
(第1年度)

2025年3月期
(第2年度)

2026年3月期
(第3年度)

2027年3月期
(第4年度)

2028年3月期
(第5年度)

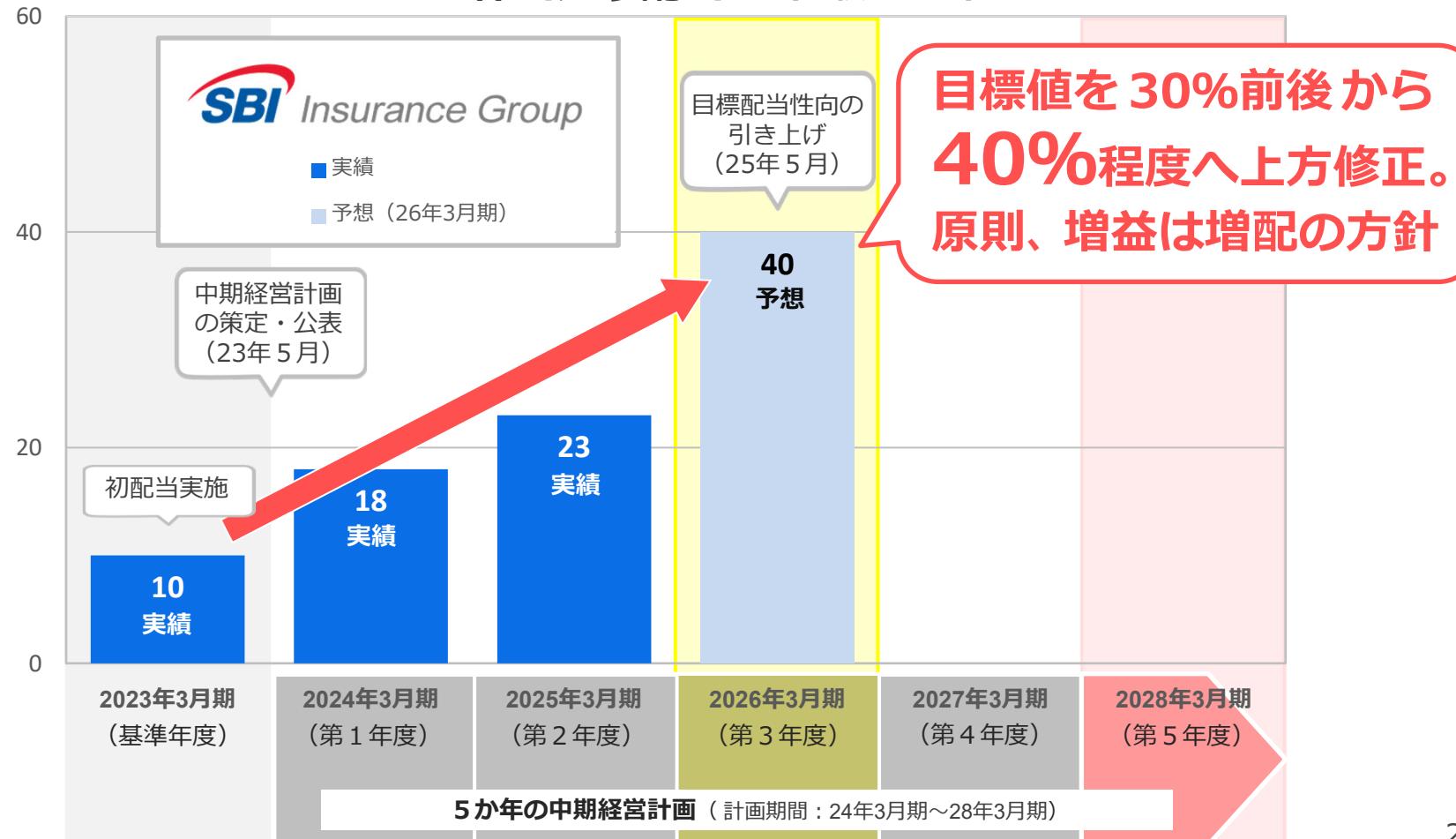
5か年の中期経営計画（計画期間：24年3月期～28年3月期）

株主還元

進行期以降、目標とする連結配当性向の 10%引き上げを決定。
「目標とする利益成長 × 目標配当性向」で連続増益・連続増配を目指す。

(単位：円)

1 株当たり配当金 (実績・予想)



暗号資産の「XRP」を受け取ることのできる株主優待制度を新設。 「安定的な配当+株主優待」による総合的な株主還元を推進

「XRP」（エックス アール ピー）とは

- ◆ 当社の親会社であるSBIホールディングス(株)が出資している Ripple Labs Inc.（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ）が関与する、主に次世代金融サービス領域において活用される暗号資産が「XRP」です。
- ◆ Ripple社とSBIホールディングス(株)は協力関係にあり、2016年には両社の合弁会社「SBI Ripple Asia」を設立し、日本およびアジア地域におけるブロックチェーン基盤のクロスボーダー決済や次世代金融サービスの発展に取り組んでいます。



所定の条件の下、来年3月末の当社株主様へ、以下のとおり、
保有株式数と継続保有期間に応じて暗号資産の「XRP」を進呈

(株主優待の概要)

保有株式数	継続保有期間	進呈するXRP
100株（1単元）以上	-	2,500円相当のXRP
500株（5単元）未満		
500株（5単元）以上	2年未満	10,000円相当のXRP
	2年超	12,000円相当のXRP

※詳細につきましては、当社ウェブサイト（<https://www.sbiig.co.jp>）に掲載しております
「株主優待制度の導入に関する お知らせ」および「株主優待制度の導入に関する補足説明資料」
(共に2025年10月29日公表) でご確認ください。

※2026年3月31日時点の株主名簿に記載、または、記録された100株（1単元）以上を保有する
株主の皆様の登録ご住所に、7月中旬までに「株主優待のご案内」を郵送させていただく予定です。
SBI VCトレード株式会社の取引口座をお持ちでない株主様は、案内に従ってSBI VCトレード株式
会社にて口座の開設をお願いいたします。



長期展望



進行期である26年3月期より、IFRSの任意適用に向けた準備を開始。
以下の予定に基づき、対応を進めてまいります。

(今後の予定)

会計期間	26年3月期	27年3月期	28年3月期	29年3月期	30年3月期
フェーズ	準備期間			比較年度	適用年度
開示基準	日本基準			日本基準	IFRS
実施項目	会計基準の差異分析および会計方針の策定 IFRS対応システムの構築 社内の体制整備および教育の実施 監査人への確認・調整			IFRSによる比較年度財務諸表の作成 会計監査対応	IFRSによる決算発表 (第1四半期よりIFRS)

当社がIFRSの任意適用に向けた準備を開始する理由と 保険業界における適用事例は以下のとおり

(準備開始の理由)

- (1) 既にIFRSを任意適用している当社の親会社のSBIホールディングス株式会社と会計基準や評価基準を合わせることができること
- (2) 日本基準に比べ、保険事業の状況をより適切に表示できること
- (3) 保険会社を含め、IFRSを任意適用する会社が増加している社会的背景があること

(保険持株会社/保険会社によるIFRS任意適用の事例)

会 社	任意適用の開始時期 ※
楽天インシュアランスホールディングス(株)	22年3月期（参考開示）
ライフネット生命保険(株)	24年3月期
SOMPOホールディングス(株)	26年3月期（有報は25年3月期）
東京海上ホールディングス(株)	26年3月期（予定）
MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株)	26年3月期（予定）
ソニー フィナンシャルグループ(株)	27年3月期（予定）

SBIホールディングス(株)の税引前利益 (IFRS)

に含まれる当社グループの税引前利益

(単位：百万円)

	2025年3月期 通期
損害保険事業	2,162
生命保険事業	3,434
少額短期保険事業	971
調整額	△610
税引前利益 (IFRS)	5,957 (1株あたり 240円 01銭)

当社グループの税引前利益 (日本基準)

(単位：百万円)

	2025年3月期 通期
損害保険事業	1,288
生命保険事業	935
少額短期保険事業	436
調整額	△596
税引前利益 (日本基準)	2,064 (1株あたり 83円 18銭)

本参考開示のご説明

当社グループは、日本において一般に公正妥当と認められた会計基準（以下、「日本基準」）による決算開示を行っていますが、当社の親会社であるSBIホールディングス株式会社（以下、「SBIH」）は、国際会計基準（以下、「IFRS」）に基づいた連結決算開示を行っています。

保険事業においては、保険契約負債の計上基準や有価証券の分類・測定などの会計処理の違いにより、双方の会計基準間の差異が大きいことから、当社グループの業績をご理解いただくための補足情報をご提供することを目的として、SBIHの連結業績（IFRS）に含まれる当社グループの税引前利益をご参考情報として掲載しております。このIFRSの税引前利益につきましては、SBIHが定めたアカウンティングポリシーに基づいて作成しております。

なお、当社グループではIFRSの任意適用に向けた対応を当期より開始しており、30年3月期 第1四半期よりIFRSに基づく連結決算開示を開始する予定です。

SBIグループは、SBIネオ金融プラットフォーム(株)を設立。今後、グループ横断的に各社の金融サービスを提供できるアプリを開発・運営

【FPaaS事業のイメージ】



Smart Protection



SBI Insurance Group



Next-Gen Finance in Your Pocket

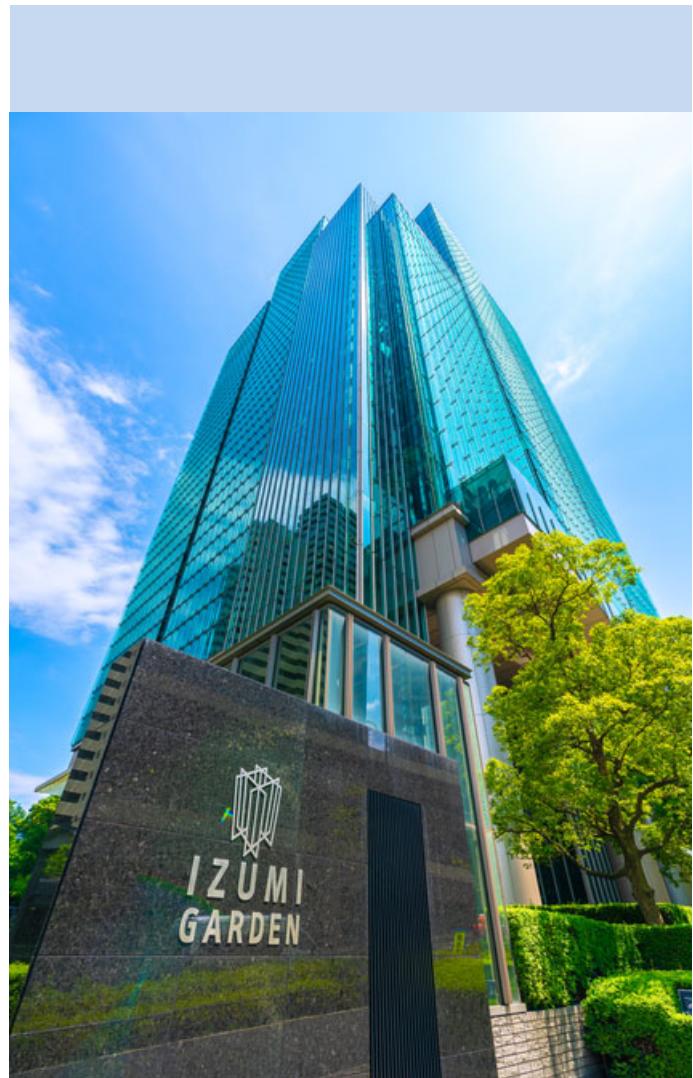
ご清聴 ありがとうございました。



最新のテクノロジーで保険をもっと便利でリーズナブルに

參 考 資 料

会社名	SBIインシュアランスグループ株式会社
上場先等	東証グロース市場 証券コード：7326
所在地	東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー16階
設立	2016年12月19日 (SBI保険持株準備株式会社 設立)
営業開始	2017年3月31日 (SBI保険持株準備株式会社より現社名に商号変更)
事業内容	子会社の経営管理およびこれに附帯する業務 (保険業法第271条の18に基づく保険持株会社、 保険業法第272条の35に基づく少額短期保険持株会社)
代表者	代表取締役 執行役員会長兼社長 乙部 辰良



泉ガーデンタワー

2025年9月1日現在

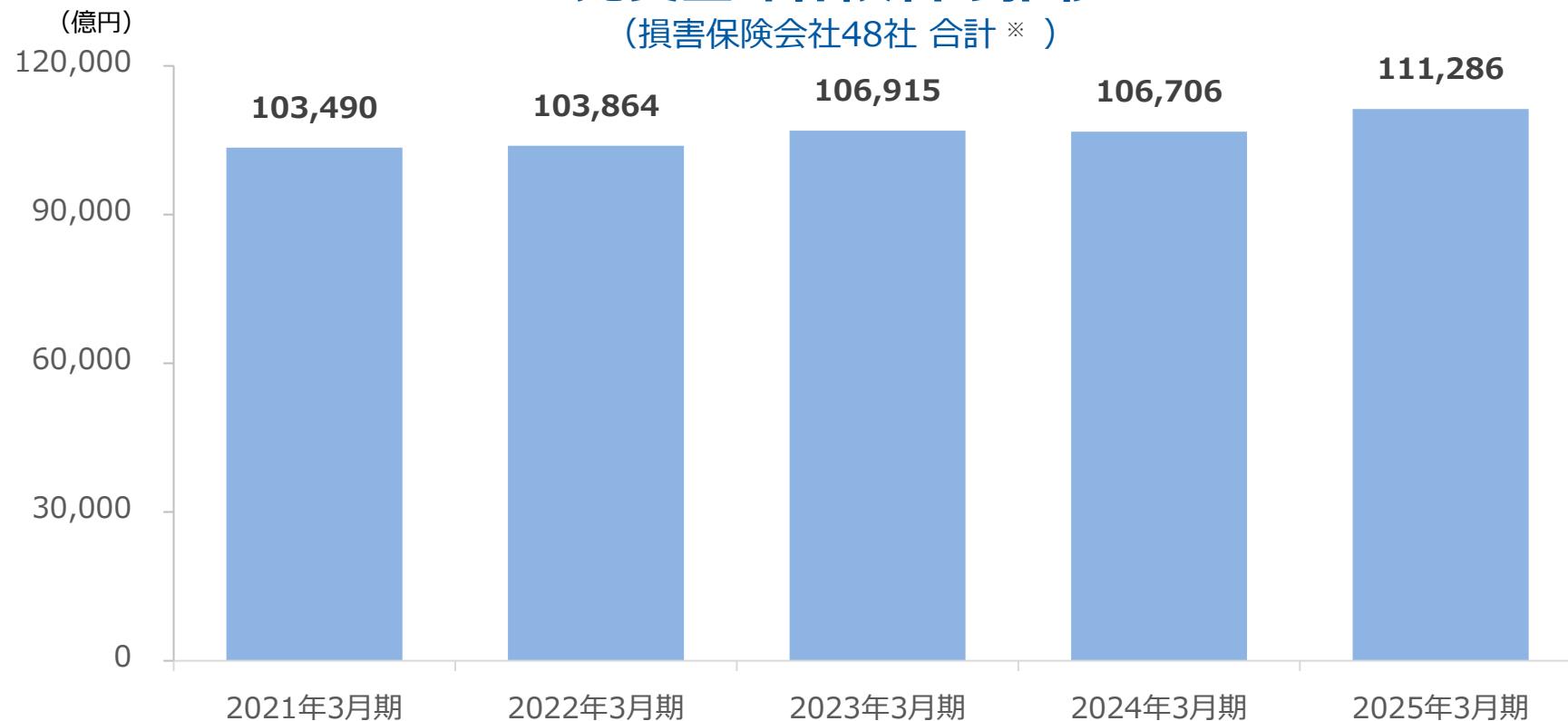
日本の保険市場は、既に市場シェアが大きい大手保険会社にとっては、成長の余地は限られる。他方、当社は、大手のシェアを取って成長する後発組。市場シェアが小さく、今後も超長期にわたる成長が可能

- ◆ 損保市場・生保市場は、世界有数の巨大な市場。
成長の途上にある当社には広大な伸びしろが存在
- ◆ 少額短期保険市場は、成長している市場。
2006年の改正保険業法施行で発足した、比較的新しい市場。ユニークで手ごろな価格の商品が好評
- ◆ 当社は、保険のインターネット販売を始めとする販売チャネル多様化の時流に乗って事業規模を拡大。
この時流はまだ数十年は続く

損害保険業界の元受正味保険料は11兆1,286億円（2025年3月期）。
損害保険市場は巨大な市場。市場全体としての成長は緩やか。

元受正味保険料の推移

（損害保険会社48社 合計[※]）



※ 出典：一般社団法人日本損害保険協会および一般社団法人外国損害保険協会の開示資料より当社調べ

損害保険市場は、3メガ損保がシェアの大部分を占める寡占市場。
大手からシェアを獲得するSBI損保は、成長の余地が大きい

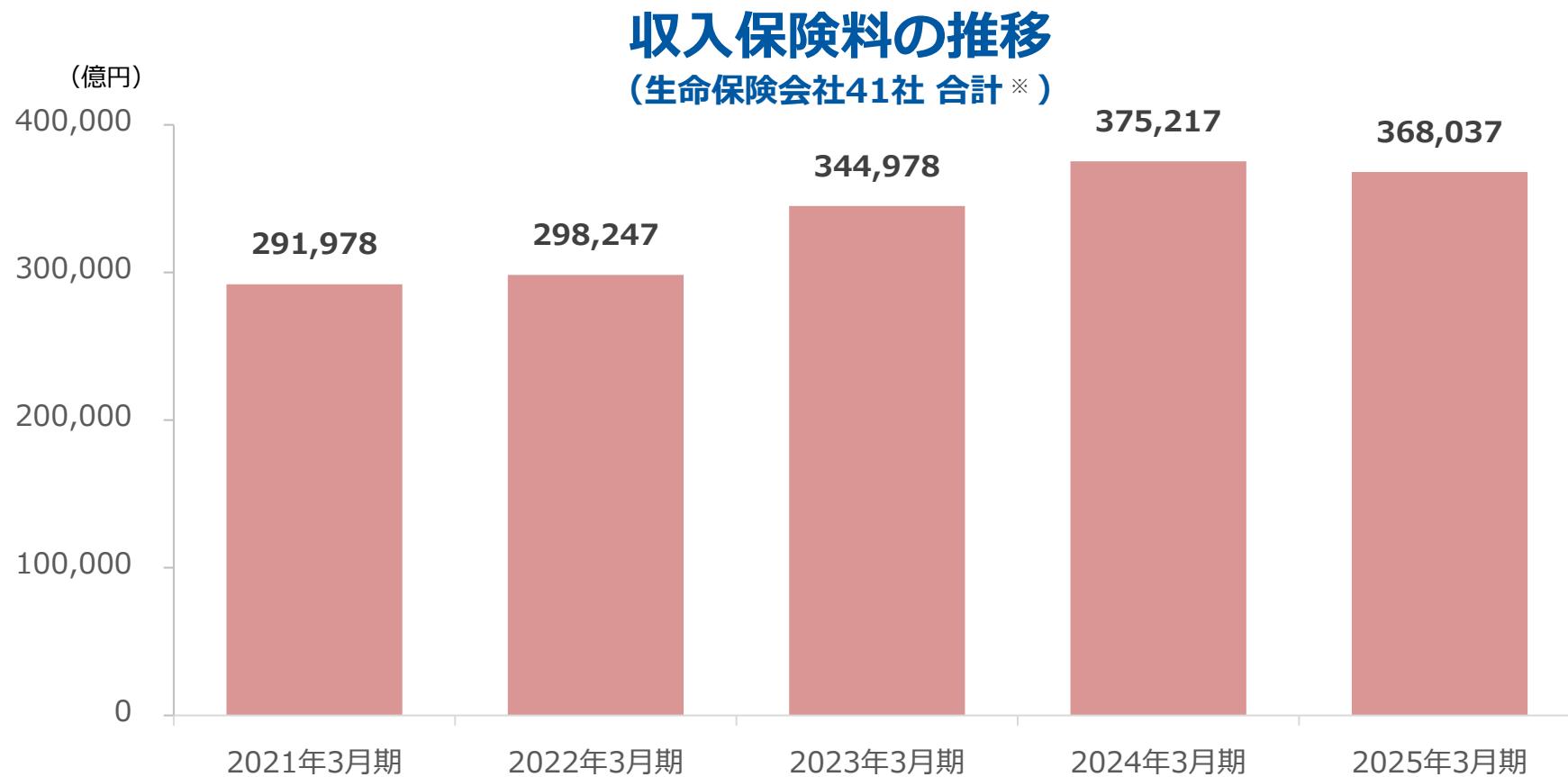
元受正味保険料

(百万円)

	2025年3月期	シェア
損害保険会社48社 合計 ※	11,128,693	100%
3メガ損保 合計	9,080,304	85%
MS&ADグループ	3,427,470	32%
東京海上グループ	2,993,886	28%
SOMPOグループ	2,658,948	24%
SBI損保	57,737	0.54%

※ 出典：一般社団法人日本損害保険協会、一般社団法人外国損害保険協会および両協会の会員各社の開示資料より当社調べ

生命保険業界の前年度の収入保険料は36兆8,037億円。生命保険市場は、損害保険市場を上回るさらに巨大な市場。長寿化の進展により、伝統的な保障である死亡保障に加えて、病気・介護などに対する保障ニーズが拡大



※ 一般社団法人生命保険協会の開示資料より

大手生保4社がシェアの31%を占有。シェアが小さいものの、 SBI生命は、前期比で20%を超える急成長を持続

収入保険料^{※1}

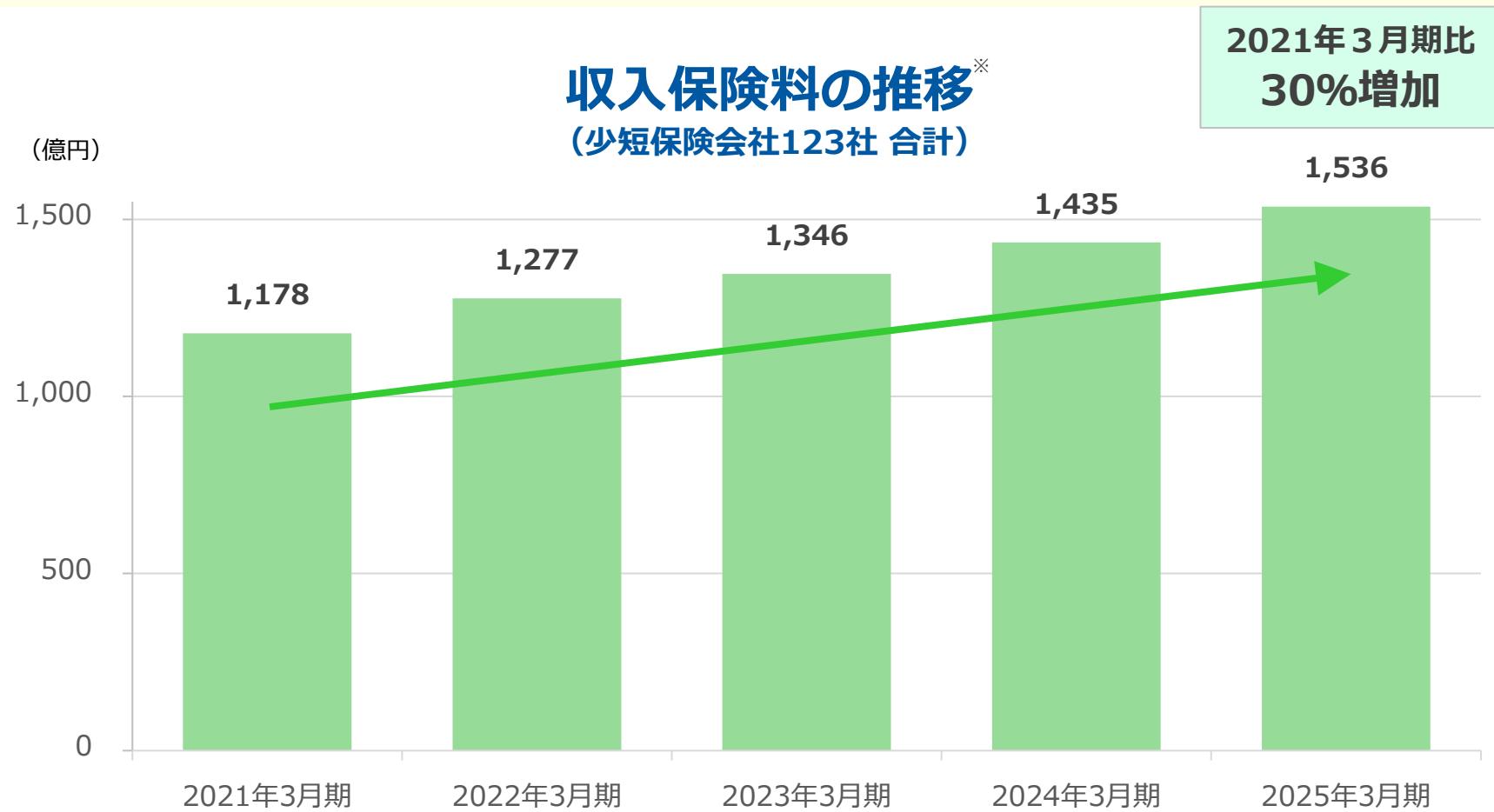
(百万円)

	2025年3月期	シェア
生命保険会社41社 合計 ^{※2}	36,803,709	100%
大手生保4社 合計	11,765,775	31%
日本生命	4,793,437	13%
明治安田生命	2,758,332	7%
第一生命	2,092,881	5%
住友生命	2,121,125	5%
SBI生命	28,328	0.08%

※1 一般社団法人生命保険協会および会員各社の開示資料より当社調べ

※2 2025年3月末日時点の一般社団法人生命保険協会の会員会社数

少額短期保険業界の収入保険料は 1,536億円（2025年3月期）。
少額短期保険市場の規模は拡大中であり、2025年3月期までの
4年間で収入保険料合計は、30%の増加



少額短期保険市場は、大手4グループがシェアの45%を占有。
当社グループが業界トップシェア

少額短期保険業界 および 各グループの収入保険料 ^{※1}
(百万円)

	2025年3月期	シェア
少短保険会社123社合計 ^{※2}	153,600	100%
大手4グループ	70,446	45%
当社グループ（6社）	21,951	14%
光通信グループ（7社）	18,628	12%
全管協グループ（3社）	17,489	11%
東京海上グループ（3社）	12,376	8%

※1 一般社団法人日本少額短期保険協会および会員各社の開示資料より当社調べ

※2 2025年3月末日時点の一般社団法人日本少額短期保険協会の会員会社数

<https://www.sbiig.co.jp>

(免責事項)

本資料に掲載されている事項は、SBI インシュアランスグループ株式会社（以下、「当社」）による当社グループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、日本国内外を問わず、いかなる投資勧誘またはそれに類する行為を目的としたものではありません。また、当社は本資料に含まれた情報の完全性および事業戦略など将来にかかる部分について保証するものではありません。なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。